

四月二十二日(日)

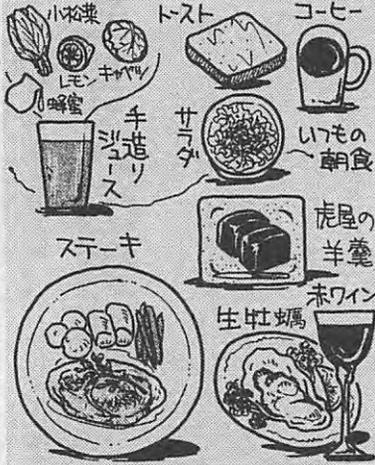
学長をしていると、土、日にも行事が多くなかなか休めない。しかし今日は楽しい一日になりそうだ。朝食はトースト一枚とレタスに小女子と胡椒をまぶせたサラダ、コーヒ二杯。コーヒの水は松本の別荘の深井戸のもので味がいい。家内の手造りの緑色のジュースは小松菜、キャベツ、レモンをミルサーで搾つ

私の週間食卓

日記



中嶋嶺雄
(東京外国語大学学長)



イラスト/小林優子

て蜂蜜を加えたもの。私の健康の素一なかもしれない。午後は二時から我が家で室内楽の練習なので、昼は片付けをしながらクッキーをつまんだだけ。五月六日(日)に年一度のスズキ・ストリング・フェスティバルが王子の「北とぴあ」で行われるが、今年の「スズキOB合奏団・中嶋嶺雄と仲間たち」の曲目はモーツァルトのアイヴェルティメントK138。丸紅の給田英哉専務ら十名の仲間と

夜まで合奏を楽しんだ。家内が仕事で出かけていたので、夕食は、ホテル・メトロポリタンのケータリングで全員一緒に松花堂弁当。

四月二十三日(月)

いつもどおりの朝食。昼は交流協定校のバリ第三大学アラン・クロシエ教授夫妻と大学新キャンパスの特別食堂で同僚の水林教授(フランス文学)も交えて会食。米客用メニューで刺身、和風ステーキ、和え物、茶碗蒸しに赤だしと御飯だったが、驚くなかれ、イナゴの甘露煮が添えてあった。信州青ちの私には大好物だが、フランス人夫妻にどう説明すべきか。イナゴのフランス語は知らなかったが、昔覚えたシャンソン「自由を我等に」の「ボン・プール・ラ・サンテ(健康に良い)」という一節が思い浮かんだので、そう説明したら喜んでくれ、ホッとす。

夜は長男が大学関係の出張で大阪から来たので、彼の好物のステーキと蛸、帆立貝、パプリカ、セロリー、パセリのシーフード・サラダに豆腐の味噌汁と御飯。九十二歳の母も食がすすむ。食後、訪日を実現した李登輝ご夫妻から「いろいろ有難う」と大阪から電話があり、話が弾む。

四月二十四日(火)

いつもの朝食後、大学へ。午前中は交流協定校の香港中文大学の国際交流担当T・ウー氏とM・ラウさんが学長室へ。同僚の女性教授・鮎沢さん(日本語教育)を交えて昨日同様に特別食堂で会食予定だったが、時間が押してきたのでスーパーのお握り一つを公用車のなかで食べて駒場の日本国際教育協会へ。私が国際事務総長をつとめているUMAP(アジア太平洋大学交流機構)のワークショップで挨拶し、新装成った代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターを見学して西ヶ原旧キャンパスの学長室へ。懸案の『東京外国語大学史 資料編一』が完成したので編纂委員会の同僚とビールで乾杯(といってもアルコールに弱い私はグラスに半分程度)。近くの中華料理屋・萬米軒の天津丼、にらレバー炒めと焼き飯子がうまい。

四月二十五日(水)

八時に車来る。いつもの朝食を急いで九時半から学長室で打ち合わせ。博士学位授与式ののち十一時からの評議会が一時過ぎまでかかる。国立大学の独立行政法人化の問題などを審議。その後も米客が相次いだので、遅い昼食は秘書の吉村さんにもらったアンパンとクリームパン。一橋大学の石弘光学長と「四大学連合」に関

連する件を車中電話で話しながらラジオたんばのスタジオへ急ぐ。中国・アジア問題の番組を収録して、毎日新聞社内のアジア調査会へ。伊豆見元氏（静岡県立大教授）の朝鮮問題の報告の司会をつとめながら夕食はパレスサイド・ビル大作の弁当。夜は原稿執筆。好物の虎屋の羊羹と福砂屋の長崎カステラに手が出る。

四月二十六日（木）

いつもの朝食だが、無加糖のマーマレードをトーストに。大学ではカリフォルニア州立大フレズノ校のクラッセン教授の来訪、会議、英語教育に関するインタビューなど。昼食に運転手の山崎君のお母さんが作った竹の子御飯のおにぎりを二つもらった。決裁、署名、事務打ち合わせ後、虎ノ門バストラルで公明党代議士・赤松正雄君の傑作『忙中木あり』の出版記念会。同君は私が慶応大法

学部に向向していた時の教え子である。小泉新内閣に知人が何人か入閣した夜で、政界の面々や山崎正和氏、石川好氏らの旧知も多かったが、今夜は私が発起人代表なのでパーティではサンドイッチを少々つまんだ程度。帰宅後は明朝渡さねばならない新著の校正が深夜までかかり焼菓子で空腹を満たす。

四月二十七日（金）

六時半起床、いつもの朝食。第二回目仏学長会議が五月初めにストラスプールであるのだが、連休中で航空券がとれず、やっとANAのエコノミー便で今朝出発。昼の機内食はビーフと若鶏のブレゼなど、結構な味。パリの夜はホテル近くのル・グラン・カフェでノルマンディー産の生牡蠣を赤ワイン少々で満喫。

四月二十八日（土）

パリの常宿が満杯で今回はオベラ座に近いホテル・スクリーブでビュッフェ式朝食。昼は近くのカフェでムール貝とマロンのクレープが美味。夜は中国問題の著作家でもある駐仏大使の小倉和夫・典子ご夫妻のお招

きで暮れなすむエツフェル塔を眺めながら伊勢海老の雲丹ソース焼、鯛御飯などを公邸で頂戴する。メニューに「再会」と筆で書かれていた。――次回は吉本興業東京本社代表・横澤彪氏――

アドバイス



荒牧麻子（タイ エットコミュニティ ケーシヨンス代表・管理栄養士）

レストランに新設する、健康志向に対応できるメニュー作りに加わっている。フランス料理の技術を駆使した品が出来上って、日本語でのメニュー名を考えた。外国人も利用する場所なので英文表記が必要となる。食味を表現する、深い味わい、キレ、コク、旨味。果ては、まったりなど。調理方法は訳せても、食味の形容はお手上げ。やっぱり語学は大変。さて、日本の語学教育の頂点に立

つ中嶋さんの生活。朝1杯のグリーンジュースは、会食を外で過す暮しにぴったりとはまる。この度、厚生労働省から出された、野菜類1日350gを摂取するように、との推奨値を、実際の食生活でまかなうには、流動系の食品を活用するという流れに落ち着く。野菜の料理は手間がかかる。外食ではせいぜいサラダ止り。ところで、信州は果物の豊富な所りんご、ぶどう、柿、すいか、さくらんぼと何でもござれだが、学長の食卓には登場しないようである。日本の果物は美味を表わす共通語とも思う。

あふく 伊勢だより

徳力富吉郎・画

飯高・泰運寺

経字鐘撞けば青嶺におんおんと

今井三重子



伊勢名物 福赤

伊勢市宇治中之切町・電話(0596)22-2154代